

和地ひとみレポート No.325



ハミングホールのありかたは？

東大和市も新しい文化政策を考える時期では・・・

■文化政策を学ぶ

…8月5日に公益財団法人日本都市センターが開催した都市経営セミナーに参加してきました。セミナーのテーマは『文化芸術ガバナンスと公民連携』というもので、正直、テーマを見ただけではピンときませんでしたが、東大和市のハミングホールの経営課題のことや、最近、東大和市が進めている民間活力の積極的な導入についても関連するのではないかと考えて参加したところ、今まであまり注目していなかった“文化政策”というものを学ぶことができました。

…東大和市には市民会館ハミングホールがありますが、さらなる有効活用ということについて、今まで議会、行政ともに話題にしていなかったのは、東大和市に“文化政策”がないからではないかという新たな視点を持つことができました。

■新しい劇場のあり方とは

…今回のセミナーでは、劇場法の意図することなどについても取り上げられました。この劇場法というのは略称で、正式には「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」というもので、文化芸術振興基本法の基本理念に基づいて、劇場・音楽堂・文化ホールなどの機能を活性化し、音楽・舞踊・演劇・伝統芸能・演芸の水準の向上と振興を図るために制定された法律です。劇場・音楽堂等の事業、関係団体および国・地方公共団体の役割、基本的施策などについて定めたもので、平成24年（2012）に施行されています。

【劇場法が示した新しい劇場の役割とは】

◆劇場、音楽堂等は、文化芸術を継承し、創造し、及び発信する場であり、人々が集い、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育み、人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点である。

◆劇場、音楽堂等は、個人の年齢若しくは性別又は個人を取り巻く社会的状況等にかかわらず、全ての国民が、潤いと誇りを感じることでできる心豊かな生活を実現するための場として機能しなくてはならず、常に活力ある社会を構築するための大きな役割を担っている。

◆現代社会においては、劇場、音楽堂等は、人々の共感と参加を得ることにより「新しい広場」として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能も期待されている。また、国際化が進む中では、国際文化交流の円滑化を図り、国際社会の発展に寄与する「世界への窓」にもなることが望まれる。

◆劇場、音楽堂等は、国民の生活においていわば公共財ともいべき存在である。

◆実演芸術に親しむ機会を広く提供するため、積極的に実演芸術の公演などの鑑賞機会を設けるとともに、劇場、音楽堂等を設置し、又は運営する者、実演芸術に関する活動を行う団体及び芸術家、国及び地方公共団体、教育機関等が相互に連携協力して取り組む必要がある。

…今回のセミナーの講師のお一人の衛 紀生氏（エイキセイ氏）は、多くの自治体文化行政に関わると同時に、大学の講師や文化庁、財団法人地域創造などの委員を務め、現在は岐阜県可児市の文化創造センターの館長をされている方。可児市は名古屋市から30 km圏内に位置する人口約10万人の市。可児市のホールの平成22年度のデータでは、収支比率を平成15年の25.4%から72.1%にアップ、観客数は平成16年から260%増、年間来場者数37万人を実現しており、その運営方法は全国から注目されています。

…衛氏によると、日本の劇場は世代で進化しているとのこと。第1世代は講演会などの集会を開くような「公会堂時代」。第2世代は昭和30～40年代に建てられた貸館専門の「市民会館時代」。第3世代は昭和50～60年代に設置された、自主事業も行う鑑賞型の「多目的文化会館時代」、そして第4世代が創造型の「専用劇場時代」で、ここまでは仕様や機能面での分類とのこと。そして第5世代の劇場・ホールとして、健全な地域社会をつくるための社会機関としてのミッションをもった施設を衛氏は提唱しており、その運営ではマーケティングによる市民との関係づくりに重点を置いているとのこと。

■ハミングホールにかかる費用は

…今回のセミナーでは、文化や芸術に公金＝私たちの税金が投入されていることについても取り上げられました。以前は文化を守るために、補助金や助成金という形で公金が投入されていたのですが、それは一方通行かつ、一部の人しか恩恵を得ていないという見方もありました。しかし、劇場の役割やあり方が変わった現在は、市民のお金を投入することを将来への投資と捉えられるように活用するとともに、双方向での効果が必要だとのこと。

…東大和市のハミングホールは指定管理者制度＝民間の運営会社に運営を委託していますが、その費用は「文化振興費」として市の予算、決算に計上されています。

◆平成29年度の決算より

「文化振興費」市民会館運営費 1億3,972万円

【施設稼働率】

	H28年度	H29年度	前年度比
大ホール	60.4%	64.0%	3.6%
小ホール	86.6%	85.6%	▲1.0%
リハーサル室	95.2%	93.1%	▲2.1%
練習室	96.2%	97.4%	1.2%
会議室1	74.5%	79.4%	4.9%
会議室2	63.4%	71.6%	8.2%
会議室3	54.1%	57.2%	3.1%
全施設平均	76.0%	78.3%	2.3%

(裏面に続く)

…上記は、最新の決算である平成 29 年度のもので、稼働率は前年度よりは向上していますが、例えば大ホールが使用されていても半分空席などということもあったため、ホール稼働だけでは利用者数はわかりません。さらに言えば、市民の税金を投入している（上記の運営費のうち 1 億 1,700 万円が市の一般財源）このホールをどれだけ市民が利用し、その恩恵を享受できたのか。

…セミナーでは公金を投入するからには「一部の愛好家だけが行く場所」から、多くの市民が利用する場所となる運営の必要性についても指摘があり、「ハミングホールについても赤字、黒字といったようなお金の面だけで運営を評価するだけではないかな」と思いました。

■福祉、将来への投資という視点で

…地方自治体の目的は、住民の福祉を増進することと地方自治法に書かれているように、東大和市の行政の目的も「東大和市民の福祉を増進すること」です。ここで言う『福祉』とは狭義のものではなく広義のもので、幸福や生活の安定や充足を指しています。

…以前、市内の公園について一般質問で取り上げた際、イギリスで孤独担当大臣が設置されたことを取上げましたが、その英国政府の孤独担当大臣のもとに設置されている「ジョー・コックス孤独問題対策委員会」の報告によると、10代の62%、家族を介護している者の80%、高齢者の66%、身体障害者の50%が孤独と孤立を感じており、孤独と孤立を防ぐことで5年間に360万ポンド、日本円にして5億3000万円の医療費の抑制をもたらすとしています。そして、「福祉とはもともと経済的な概念ではなく、満足すべき生活状態を表す心理的な概念である。したがって、経済的給付や優遇措置だけでは福祉は達成できない」というイギリスの社会学者のアンソニー・ギデンスの言葉通り、日本でも福祉の考え方については、人との繋がりや社会との関りが重要となってきています。

…教育や文化は「将来・未来への投資」という視点で、そこに費やす公金については正当性が担保され、長期的な考え方で捉えられていますが、財政的にゆとりがない時代において、特に文化については“少々ぜいたく”なイメージにも捉えられることもあると思います。しかし、上記のとおり、ハミングホールを利用する人もしない人も含まれている納税している全市民から徴収される税金がハミングホールに投入されていると考えれば、この「福祉の増進」のために、より多くの市民がハミングホールの恩恵を享受できるように考えることが必要ではないでしょうか。

…例えば、市民体育館では介護予防のためのメニューを市が考え取り組んでいます、ハミングホールでも、今までホールに縁のなかった市民が参加できる、高齢化社

会の課題解決につながる取組みをしても良いのではないかと思います。

…前述の岐阜県可児市のホール運営方針は「芸術の殿堂」ではなく、人々の様々な思い出のつまった「人間の家」とし、市、地元企業、学校、NPO 法人、福祉施設などと連携してまちを元気にすることを目指しています。2017 年度には、様々なワークショップやプロジェクトを 30 実施し、参加者数は延べ 9,509 人、集客数は 7,944 人とのこと。稼働率ではなく「どれだけの人が集まって、出会ったか」を軸にして考えているところがハミングホールとは違います。そして、このような取組みの中で、中退者が多かった高校の中退者数を激減させることもできたとのこと。日本財団「子どもの貧困の社会的損失推計レポート」では、『中卒者・高校中退者の 4 人に 1 人が無業者（社会保障受給者）であるのに対して、高校を卒業するだけでも、その割合が 10 人に 1 人になる』とされているので、このような可児市の文化政策の取組みは、社会保障費の抑制という具体的な点で考えても、実に将来への投資として公金が活用されていると実感できます。

…海外では孤独についてのたくさんの医学的な研究がされており、孤独は「タバコを 1 日 15 本吸うことに匹敵する」「アルコール依存症であることに匹敵する」「肥満のリスクの 2 倍高い」「早死リスクが 50% 高くなる」というようなデータもあります。ハミングホールの存在意義を文化ということから福祉の増進、将来への投資という視点まで広げて捉えれば、今までにない取組みもできると感じます。

■市の政策に折り込めば

…東大和市ではこれまで“文化政策”という言葉を目にしたことはありませんでした。「ハミングホールについては、そこにあるのだから、赤字にならないように運営してほしい」という一施設という捉え方しかされてないように思います。そして、今後、老朽化で様々な機材なども更新しなければならなくなり、ともするとお荷物的に考えられてしまうような施設になる可能性もゼロではありません。

…市の施設であるハミングホールについては、市の政策に折り込むべき。「日本一子育てしやすい街」という東大和市の目標にどう活用できるか。国保税の値上げを削減するためにどう医療費抑制に繋げることができるか。可児市では人口増を目的に文化政策を進めていたわけではなかったのに、文化活動が盛んになったことも影響してか人口が増えているとのこと。東大和市も劇場法の示している新たな劇場のあり方、そして市の役割を踏まえて、文化政策をそろそろ作っても良いのではないかと感じました。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970 年 東京都北区生まれ。父の転勤で 1 歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を 2 年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。学校外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経 WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先

和地 ひとみ事務所

HP : <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp

【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木 3-274-2-102